

令和5年度 第2回青梅市子ども・子育て会議 要旨

会議の概要

開催日時	令和5年7月21日（金）
開催場所	青梅市役所災害対策本部室（オンライン併用会議）
出席者	<p>委員</p> <p>坂井隆之（明星大学特任教授） 中村明子（市民委員） 野口綾乃（市民委員） 黒田英寿（学校法人和風会多摩リハビリテーション学院専門学校事務長） 池田政教（青梅商工会議所専務理事） 高木博康（青梅市保育園理事長会副会長） 星野弘美（青梅かすみ台第二保育園園長） 横山牧人（青梅幼稚園園長） 刀禰浩子（青梅市立第五小学校校長） 空野竜雄（株式会社モアスマイルプロジェクト経営担当） 栗原久美子（特定非営利活動法人青梅こども未来常務理事） 大野葉子（青梅市民生児童委員合同協議会理事）</p>
	<p>事務局</p> <p>濱野（子育て応援課長） 加藤（こども育成課長） 中村（こども家庭センター課長） 師岡（子育て応援課子育て推進係長） 飯島（子育て応援課子育て推進係）</p>
欠席委員	なし
議事	<p>○ 答申 (1) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について（答申）</p> <p>○ 報告事項 (1) こども・子育て推進に関する実態調査について</p> <p>○ 協議事項 (1) 令和4年度第2期青梅市子ども・子育て支援事業計画の検証報告について</p>
傍聴人数	2人
配布資料	<p>会議次第</p> <p>資料1 特定教育・保育施設の利用定員の設定について（答申）</p> <p>資料2-1 こども・子育て推進に関する実態調査（保護者用）</p> <p>資料2-2 こども・子育て推進に関する実態調査（中高生用）</p> <p>資料3 令和4年度第2期子ども・子育て支援事業計画の検証報告</p>

議事要旨（口述筆記ではなく、発言の趣旨をまとめたものである。）

発言者	発言要旨等
事務局	1「開会」第2回青梅市子ども・子育て会議を開会する。事務局挨拶、配布資料の確認。

会長	2 「会長あいさつ」
会長	3 答申「特定教育・保育施設の利用定員の設定について（答申）」の説明を求め る。
事務局	答申の説明。会長から答申書の受け渡し。
会長	4 報告事項「子ども・子育て推進に関する実態調査」の説明を求め る。
事務局	説明を行う。前回会議で指摘のあった箇所の修正をした。
会長	質問や意見等あるか。
委員	子どもの標記が、「こども」と「子ども」の箇所があるが、これはあえてそ うい う表記なのか。
事務局	「こども」に修正する。
会長	他に質問あるか。
委員	資料2-1の問15で、遊園地やテーマパークなど行く場所が限られているの で はないか。
事務局	費用がかかるものについて「できている」か「できていない」かを問う設 問 なので、費用や時間がかからないものについては選択肢に入れていない。
委員	Google フォーム等で、気軽に答えられるようにした方が良いのではない か。
事務局	今回の調査で実施することは難しい。この調査のほかにさらに調査を行 う ことは、時間・労力的に検討しなければならない。
委員	回収率はどのくらいなのか。
事務局	前は4割である。
会長	締め切りはいつなのか。
事務局	8月1日～8月31日の1か月間。
委員	アンケートを行うということは、保育園等で周知するのか。
事務局	現時点で、調査票が届いた方をお願いしているので、市民全員に周知を 行 うことは考えていない。
委員	前回の調査の時に子育てひろばにいたが、ひろばに来ている方から、「調 査 をやっていることを伝えてほしい」という声があった。調査票が届く人、届 か ない人がいるが、この調査をやっていることを周知することは有意義である と 思う。また、中高生向けの調査票に関して、保護者への文言はあるのか。
事務局	保護者用の2ページに、中高生の保護者への案内文が記載されている。 ま た、LINE等で調査の案内をする。施設にポスター等を掲示することは考 え ていない。
委員	インターネットを使って調査の周知を行い、それを見た方にアンケートに 回 答してもらうことは不可能なのか。
事務局	今回の調査は、地区ごとの人口に応じて無作為に抽出して回答して ま もらうことに意味があるので、質問のような回答方法では正しい回答が 得 られない可能性がある。
委員	そのうえで、回答率4割はいい方なのか。

事務局	統計学の観点から見ると、十分な回答を得られている。
委員	青梅市の活性化や見える化のために、調査の周知をすることや誰にでも回答してもらえるようなアンケートを行うことが重要ではないか。
事務局	子育てに関するアンケート等を別の方法で検討することは可能である。
会長	5 協議事項「令和4年度第2期子ども・子育て支援事業計画の検証報告について」説明を求める。
事務局	説明を行う。
会長	質問や意見等あるか。
委員	第1章の検証方法について、定員割れ等で量の確保はすでにできているので、今後この評価方法を変えた方がいいのではないか。
事務局	第3期子ども・子育て計画を策定するとき、計画の仕方や評価の仕方を考えたいと思う。
会長	新旧対照表が、本文では旧のままになっているのではないか。
事務局	資料のバージョンに誤りがあった。新旧対照表の情報が正しい。
委員	第2章の検証方法について、「○」以上の評価を設定した方がいいのではないか。「◎」などがあれば、特によかった事業がわかりやすいのではないか。
事務局	来年以降の評価で検討していく。
委員	No. 63「赤ちゃんサロン、親子サロン」がコロナで中止になっているのに、評価が「○」になっている。また、「○」ということは今後再開の予定がある事業ということで間違いないか。現場では、とても要望のある事業である。
事務局	今回の評価は、「－」が正しい。
会長	協議事項である「令和4年度第2期子ども・子育て支援事業計画の検証報告について」承認してもよろしいか。
委員	異議なし。
会長	訂正箇所については、訂正したうえで承認とする。
会長	6「その他」について、意見あるか。
委員	官民が一緒になって子育てを行っていくことが大切であると思う。調査票も今回はごく一部の人にしか届かないが、SNS等を使ってもっと大勢の声を聞き、それらが反映された策定になればいいと思う。
事務局	今後、市民の意見を聞くためのパブリックコメントの実施やSNS等の活用をしていくことになると思う。また、現在、東青梅1丁目に若者の居場所として、大型児童センターの設置を検討しており、これに関しても、子ども・子育て会議にもご協議いただきながら進めていきたいと考えている。
委員	児童センターは、児童館と違うのか。
事務局	大型児童センターは最低面積が規程されている。大型児童センターは、500平米以上の面積が必要である。
委員	大型児童センターの対象者は、療育（発達支援）等とは関係してくるのか。
事務局	療育（発達支援）は、関係しません。大型児童センターの対象年齢は、児童の中

	でも高めとなるが、今後議論する中で、対象年齢を幅広くすると思う。
事務局	青梅市では、一般の方からの意見聴取を積極的に行っている。今年も8月7日に「子育て世代と市長との懇談会」がある。周辺の自治体でもこういったイベントを行っている自治体は少ない。また、中学生のオンラインサロンも行っている。こういったところで得た意見を今後取り入れていきたいと考えている。
会長	7「閉会」第2回青梅市子ども・子育て会議を閉会とする。第3回青梅市子ども・子育て会議は、令和5年10月2日月曜日に行う。本日はお疲れ様でした。

会議録を確認したことをここに署名する。

令和 年 月 日